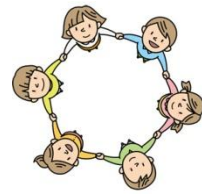


心の輪12R



『**三六五×十四回分のありがとう**』という資料を通して、

「**家族のきずな**」について考えました！



自分だったら、ここまで感謝しないと思いました。いつもケンカしかしてないけど、必ず親から謝ってくれるので、そこは愛情なのかなと思いました。

親は、私以上に思っていて、どれだけ離れていても心配してくれていることが、この時間で分かりました。私はその気持ちに伝えてあげようと思いました。

本当に細かいことでも、一つ一つに感謝することで、幸せに生きられることができるんだと思った。自分は嫌だなと思うことでも、親は自分のことを思ってやってくれているんだなと思った。

今でもお母さんのことを鬱陶しく思ったりするけど、いつも世話をしてくれたり、私の好きなものを考えてくれたり、感謝してもしきれない程の恩があることを、改めて思った。また、「いつもありがとう」と言いたい。

親は、たくさんの愛情を子供に贈り、支え合って生きていることを学んだ。私たちが思っている以上に、親は私たちを育ててくれて、悲しいときは励まし、楽しいときは一緒に笑うことが分かった。私も、これからは親にたくさん「ありがとう」と言いたい。

佐江子さんは、お母さんのことが結局のところ好きだった。自分だったら、こんな手紙の内容は書けないし、自分が思ったことを上手く伝えられないから、佐江子さんだからこそできたことだと思い、これからは親にもっと感謝していきたいです。

家族や家庭の役割

家族は私が生まれてからずっと、私の命を守り、深い愛情を注いでくれた。そして家庭は、^{つか}疲れた自分を癒^{いやす}してくれる、かけがえのない安らぎの場所。



文部科学省資料
『私たちの道徳』P.181より引用



この道徳の時間で、昔、お母さんに「生まれてきてくれてありがとう」と書いてある手紙もらったことを思い出しました。私は、手紙としてお母さんに「ありがとう」をもらったので、私もお母さんに、日頃から「ありがとう」を伝えて、「ありがとう」を返そうと思いました。もっと親を大切にしたいと思いました。

私はこの物語を読んで、「私たちは親子で一心同体だよ。」という所がとても心に残りました。また、お母さんから佐江子への手紙を読んで、佐江子が亡くなってもお母さんと佐江子はつながっていて、すごいなと思いました。

自分は、一緒に住んでいて、親のことを考えることは少ないのに、1日50回以上も考えている親は、たくさんいるんだなあと思いました。私は、いつも親のことを一番に考えないから、親の存在は大切なんだなあと思いました。